



株式会社 常磐植物化学研究所
CSR Report 2015
(社会・環境活動レポート2015)

対象期間 : 2014年4月～2015年3月

発行日 : 2015年7月31日

目次

社会への貢献を目指して	3
社会地域とともに	
【教育CSR】	
千葉県立佐倉高等学校、佐倉市立根郷小学校での理科実験教室	4
【薬用植物に関する情報提供】	4
【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】	4
【周辺美化活動】	5
従業員とともに	
【働きやすい職場の環境づくり】・【キャリア支援】	5
【労働安全衛生】・【女性の活躍支援】・【軟式野球部】・【社員旅行】・【薬祖神社】	5
【富士登山】・【年末レクリエーション】	6
植物化学の発展のために	
【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】	6
【研究機関、大学との共同研究】	6
【共同研究報告】	6
【招待講演】	7
【自社研究報告】	7
【植物化学に関連する各種団体に加盟】	7
持続可能(サステナブル)な社会のために	
【ゼロエミッション活動】	7
【薬用植物資源保全に関わる研究に参画】	7
環境活動レポート(エコ・アクション21)	
エコ・アクション21とは	8
環境方針	8
登録事業所の概要・環境経営組織図	9
環境活動の取組計画と評価	10～11
2015年度 環境活動計画	12
中期目標(2013年～2015年)	12
環境関連法規の遵守状況	13
代表者による評価と見直し	13

常磐植物化学研究所

CSR Report 2015

【社会への貢献を目指して】

常磐植物化学研究所のCSR Report 2015をご覧ください、誠にありがとうございます。

弊社は、1949年の設立当初から植物化学の成果の医薬的応用によって、社会公衆の福祉増進への寄与することを掲げ、社員の幸福と社会の発展に貢献する良き企業市民であることを経営理念の柱のひとつとしています。

2008年より環境経営システムを導入し、弊社の社会・環境活動をご報告するCSRレポートを2009年より発行しています。本CSR Reportで弊社の取組を紹介しております。ご高覧いただけると幸いです。

今後も事業活動を通じて植物化学と地域社会の発展に貢献して参ります。



株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

「設立趣意書」

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。

したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。

若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の趣旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月
株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人

「経営理念」

- 1.植物の力を引き出し、新たな価値を創造します。
- 2.最高の技術で、最高の製品を製造します。
- 3.社員の幸福と社会の発展に貢献します。

「CSR基本理念」

私たちは、植物と共にあらゆる可能性を追求することにより社会へ貢献します。持続可能な企業活動を行うために、植物資源の調達から、植物化学研究及び開発加工、製品化、すべてにおいて、地球環境への影響を重視し、積極的に保全活動に努めます。また、薬用植物の試験栽培、科学教育の推進を通じて、植物化学の発展、植物とヒトの豊かな社会作りに貢献します。

社会地域とともに

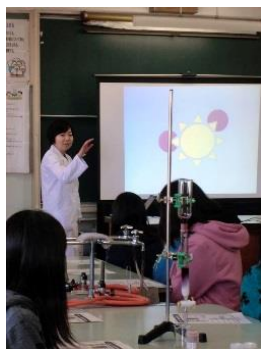
社会や地域の一員としてその発展に貢献することも果たすべき役割だと考えています。
公益活動を行う組織への支援、スポーツ・文化イベントの協賛などに取り組んでいます。

【教育CSR】

社会貢献活動の一環として実験教室を毎年行っています。
科学を身近に感じることで、次世代を担う人材の育成を目指しています。

千葉県立佐倉高等学校:佐倉アカデミア
(スーパーサイエンスハイスクール指定校)

昨年に引き続き、本年も7月17日に千葉県立佐倉高等学校の生徒1年生 20名を対象に常磐植物化学研究所にて「植物の成分を精製しよう!」と題した実験実習を行い、その後、本社工場施設及びハーブ園の見学を行いました。
冒頭の講義により数千を超える成分を持つ植物からどのようにして目的の成分を取り出すか、という原理を学んだ後、実際の方法を体験します。
実験実習後に施設見学を行うことで科学が実際に利用されている生産現場を知ってもらいました。



佐倉市立根郷小学校

4~6年生の43名の元気な児童の皆さんを対象に実験教室を実施しました。

甘草の甘さ体験や、ブルーベリーの青色色素を取り出す科学の実験授業を行いました。砂糖の150倍の甘さや色だけを分けていく未知の体験に驚きと関心を持って、集中して授業に取り組んでくれました。

【薬用植物に関する情報提供】

Webサイト内の「薬用ハーブ辞典」

(<http://www.tokiwapl.co.jp/herbs/>)では、西洋ハーブや東洋ハーブについて、学名、成分、概要、生理活性等の情報を提供しています。

【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】

本社工場に隣接したハーブ園では、100種類を超える西洋ハーブや東洋ハーブを無料で見学いただいています。一般の植物園では見かけることの少ない有用植物も栽培されています。
夏には旬のブルーベリー狩りを楽しんでいただいています。



【周辺美化活動】

毎月本社工場周辺の清掃を行なっています。「挨拶 地元を元気に！」の合言葉の下、清掃活動の傍ら、挨拶運動も実施しています。通りがかりの方にも声をかけていただけるようになりました。これからも継続して活動していきます。



従業員とともに

安全で働きやすい職場環境を整えるとともに、一人ひとりがやりがいと誇りを持って働くことができるよう取り組みます。

【人と人が繋がる職場づくり】

仕事への「誇り」と「生きがい」や「おもてなしの心」を持ってもらうために「エンジェルレポート」を実施しています。

【労働安全衛生】

社員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境を形成します。法令遵守と安全衛生活動の充実を図り、労働災害を未然に防止するために必要な事項を明確にし、全社一丸となって推進しています。

【キャリア支援】

OJTを通じ自立型人材を育成します。全ての社員に成長する機会を与えられるよう、階層別、テーマ別研修を設けています。最近では、管理職のヒューマンスキルを高める研修や新人・若手社員の早期戦略化に向けた研修に力を入れています。

【女性の活躍支援】

女性の活躍支援に取り組んでいます。新任管理職への研修などを実施。女性がこれまで以上に活躍できる職場環境づくりを展開してきました。2015年度以降もこれまでの活動に加え、新たな施策を検討し、推進していきます。

スポーツ、レクリエーションを通じてコミュニケーションを密にし、交流を深めています。

【軟式野球部】

第31回 千葉県食品製造健康保険組合軟式野球大会の準決勝、決勝が行われ、当社野球部が「2連覇」しました。また、3名が個人賞を受賞しました。



【全社総会社員旅行】

千葉県南九十九里海岸沿いのリゾートホテルで全社総会を行いました。翌日にはスポーツで汗を流した後、ガラス細工に挑戦するグループと房総を観光するグループに分かれて楽しみました。



【薬祖神社】

常磐薬祖神社のお社は設立65周年を記念して
完成し、五條天神社様より大己貴命（大国主命）
と少彦名命の2柱の神様の御分霊を勧進して、
遷座祭を行いました。この2柱の神様は国づくり
の神様として、国土開発・病氣平癒・医薬の普及
などを行ったといわれる神様です。



【富士登山】

創立60周年に続き、65周年記念事業の一環として、2度目の富士山登山を行いました。1泊2日の日程で無事に登頂し、皆でご来光を拝みました。



【年末レクリエーション】

毎年、年末の最終日には防災訓練と餅つきが行われています。一年の労をねぎらい、お正月を迎えました。



植物化学の発展のために

常磐植物化学研究所は植物化学の発展への貢献活動の一環として、関連する学会、機関、大学等への参画、協賛、共同研究等を行っています。

【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】

日本学術振興会 - 植物分子デザイン第178委員会、日本ハーブ療法研究会、植物化学シンポジウム(植物化学研究会)

日本植物細胞分子生物学会、(公財)木原記念横浜生命科学振興財団

日本薬史学会、東京大学乙卯研究所、Antioxidant Unit研究会

【研究機関、大学との共同研究】

(研究機関)

国立医薬品食品衛生研究所、国立精神・神経研究医療センター、独立行政法人理化学研究所、北里大学東洋医学総合研究所、国立医療長寿健康センター、かずさDNA研究所

(大学等)

東京大学、慶応義塾大学、千葉大学、北里大学、昭和大学、筑波大学、東京理科大学、横浜市立大学、星薬科大学、大阪大学、帝京大学、Jiangnan University(江南大学)

イノデンタルクリニック 等

【共同研究報告】

- ・エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFM)の薬理作用
- ・エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFM)の製造法及びその成分組成について
- ・Effects of E/Z isomers of lycopene on experimental prostatic hyperplasia in mice
- ・Potent SIRT1 Enzyme-stimulating and Anti-glycation Activities of Polymethoxyflavonoids from *Kaempferia parviflora*
- ・Antimutagenicity Screening of Extracts from Medicinal and Edible Plants against N-Methyl-N-nitrosourea by the Ames Assay
- ・育薬を指向し生物学的特性解析を基盤とした漢方処方品質評価に関する研究
- ・日本薬局方における定量NMR(qNMR)の利用に関する準備研究
- ・Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science

【招待講演】

現代漢方 & ヘルスケア製品展・国際会(ICMCM)で当社の製品の研究開発について講演させていただきました。

於: International Conference & Exhibition of the Modernization of Chinese Medicine & Health Products (ICMCM)



演題: "Research and Development of Kaempferia Parviflora Extract, SIRTMAX, for Endocrinometabolic Diseases as a Functional Food"

【自社研究報告】

- ・メディカルハーブレッシン ～ラフマについて～
- ・ビルベリーを含む健康食品の品質評価: 市場におけるビルベリーサプリメントの品質課題と新たな評価方法の開発
- ・黒ウコンエキス(SIRTMAX®)の血管老化予防への期待 ～ヒトモニター試験における新知見～

【植物化学に関連する各種団体に加盟】

日本医薬品原薬工業会、日本漢方生薬製剤協会、(公社)東京医薬品工業協会
(一社)千葉県製薬協会、(公社)東京生薬協会、日本食品添加物協会
(公財)日本健康・栄養食品協会、(一社)日本栄養評議会、(一社)日本健康食品規格協会
化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会、日本ブルーベリー協会
千葉県食品産業協議会、日蘭協会

持続可能(サステナブル)な社会のために

地球環境と調和した事業活動を通して、環境負荷の低減に取り組んでいます。

【ゼロエミッション活動】

植物資源を無駄なく使用し、廃棄するものを少なくすることにより、環境への負荷を軽減します。

植物エキスの製造後に排出される搾りかすは堆肥となり、作物の栽培に利用され、新たな植物資源を生み出しています。

【薬用植物資源保全に関わる研究に参画】

独立行政法人理化学研究所との共同研究において、薬用植物資源として重要な甘草から得られる有用成分(グリチルリチン酸)の生合成に関する特許を取得しました。

特許権者: 株式会社常磐植物化学研究所

独立行政法人理化学研究所

〔発明の名称〕

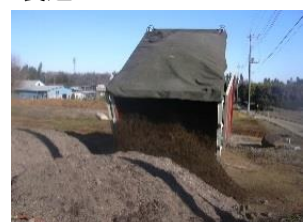
カンゾウ属植物由来トリテルペン酸化酵素
それをコードする遺伝子およびその利用



植物エキス製造



栽培



残渣堆肥化



環境活動レポート(エコアクション21)

常磐植物化学研究所は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21認証登録制度」に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。またエコアクション21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

エコアクション21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を審査し、認証・登録する制度がエコアクション21認証・登録制度です。



エコアクション21

認証・登録番号0003872

環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。

2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進

エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進

廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。又、グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。

4. 環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

5. 環境方針の周知と社内教育の推進

地球環境と共栄していくための教育を行い、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。

6. 地域の人々との共生

地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2015年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <http://www.tokiwapl.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 製造部次長 : 戸張 雅人
担当者 EA21事務局 : 酒井 裕介 TEL 043-498-0007

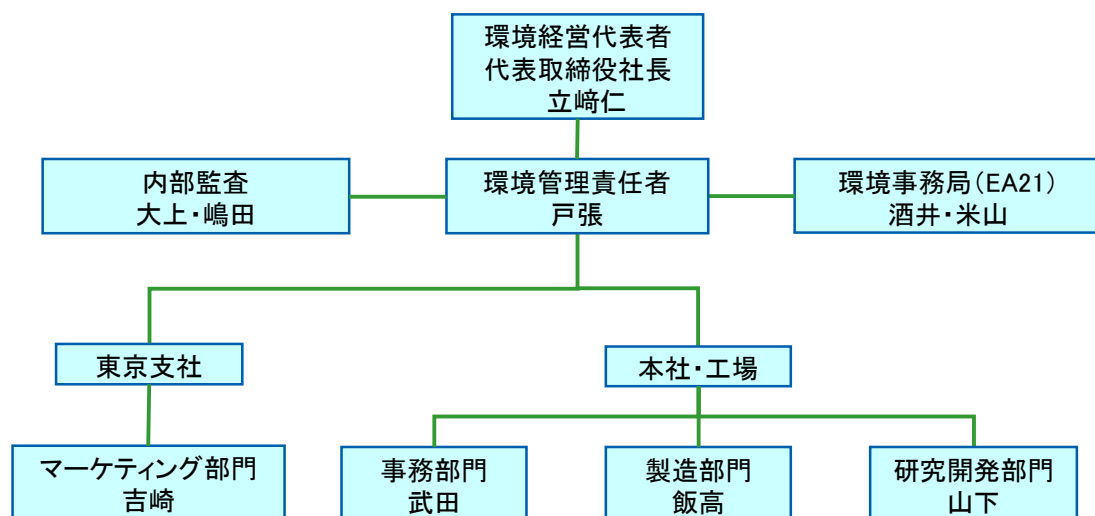
事業内容(認証・登録の範囲)

医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
認証・登録範囲 全組織(本社・工場及び東京支社)及び全活動

事業規模

資本金	7,000万円	
主要製品生産量	938 t/年	
従業員	本社・工場 113名	東京支社 13名 (2015年4月1日現在)
工場延べ床面積	本社・工場 8,297 m ²	東京支社 138 m ²

環境経営システム組織図



環境活動の取組計画と評価

環境目標及びその実績

項目		年度	全 社			本社・工場			東京支社		
			2012年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度	2014年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減		t-CO ₂	1,630	1,270	1,221	1,625	1,263	1,215	4.5	6.9	6.2
二酸化炭素排出量(燃料)の節減		t-CO ₂	2,685	2,571	2,488	2,685	2,571	2,488			
一般廃棄物の削減		総量(t)	37.3	36.8	42.68	36.9	36.4	42.4	0.36	0.35	0.28
産業廃棄物の削減		総量(t)	61.4	65.0	59.8	61.4	65.0	59.8			
総排水の節減		総量 (m ³)	100,849	102,199	95,614	100,743	102,107	95,520	106	92	94
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	変化量 (%)		+76.6	-50.3		+76.6	-50.3			
グリーン購入の推進		品目数		3	2		2	2		1	1
製品毎の製造工程改善		課題数		82	63		82	63			
食品廃棄物リサイクル率の維持		リサイクル 率(%)	98.3	98.3	99.2	98.3	98.3	99.2			
参考／製品の拡売		生産量 (t)	966	966	938	966	966	938			

環境活動の取組計画と評価

2014年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み評価

本社・工場

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・休憩時間中の照明の消灯・エコプロ導入電気使用量削減	目標:1,340 t-CO ₂ 実績:1,215 t-CO ₂ 110 %	生産負荷の低減が年々実行できている。より生産効率化を計り、現状維持に努める。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ・エコドライブ運動の推進・蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標:2,653 t-CO ₂ 実績:2,488 t-CO ₂ 106 %	生産負荷の低減が年々実行できている。より生産効率化を計り、現状維持に努める。
一般廃棄物の削減 ・消耗品の購入管理 ・分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標:36.3 t 実績:42.4 t 85.6 %	一般廃棄物の増加原因を同定し、その削減に努める。職場の整理整頓のような一過的な増加以外の廃棄物の削減を徹底する。
産業廃棄物の削減 ・有機溶媒の省力化・産業廃棄物管理	目標:60.2 t 実績:59.8 t 100.6 %	目標を達成できている。継続して管理を徹底する。
節水 ・各工場への節水教育・退出時の見回り実施、節水意識向上	目標:98,728 m ³ 実績:95,173 m ³ 103.7 %	目標を達成できている。継続して管理を徹底する。
化学物質使用量の削減 ・PRTR法対象化学物質使用量の確認 ・分析機器移動層の適正量調整 ・移動層使用量削減に向けたHPLC分析法の確立 ・エタノール回収量の把握と管理 ・残渣乾燥機のランニングコスト管理	PRTR法対象化学物質 目標: 1.5 %減 実績: 50.3 %減 エタノール 目標: 3 %減 実績: 2.3 %増	PRTR法対象化学物質は生産状況において使用量が大きく変動するので、常時使用量を把握し、削減に努める。 今期はエタノールの使用量の把握まで。来期以降削減を目標とし行動する。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:2品目追加 実績:2品目追加 100.0 %	目標を達成できている。継続して検討を進める。
製品毎の製造工程改善 ・作業時間の無駄改善	目標:— 実績:63 項目	課題を明示し、改善に努める。
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ・リサイクルの推進・動植物性残渣の低減	目標:80.0 %以上 実績:99.2 %	目標を達成できている。継続して管理を徹底する。
地域社会との共生 ・周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	参加の呼びかけ、地域住民への挨拶などを徹底し、地域社会へのさらなる貢献に努めている。

東京支社

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・エアコン設定温度の管理・未使用機器の電源を切る	目標:6.21 t-CO ₂ 実績:6.97 t-CO ₂ 89.0 %	夏季、冬季と管理が徹底されていない。管理強化が望まれる。
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用によるコピー用紙の削減・書類の紙媒体削減	目標:349.3 kg 実績:278.3 kg 125.5 %	削減に関する意識向上がみられる。継続して管理を徹底する。
節水 ・節水の周知徹底、節水機器の設置・退出時の見回り実施	目標:106 m ³ 実績: 94 m ³ 112.7 %	目標を達成できている。継続して管理を徹底する。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:1品目追加 実績:1品目追加 100.0 %	目標を達成できている。継続して検討を進める。

総括(全体評価と見直し内容)

ほぼ目標を達成できている。しかし、一部電力使用量増加など未達成の取組みもあり、1日のチェック回数を増やす、社員への呼びかけを徹底するなど、管理向上に努める。新たに取り組む課題に含めた製品毎の製造工程改善は、今期は改善箇所を集計したので、来期は目標設定し改善に向けて取り組む。

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2011年の値 = 0.463を使用する。

2015年度 部門毎取り組み予定

部門	項目	取り組み内容
製造部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ 省電力機器の検討・導入による消費電力の削減
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ ボイラーの管理 ■ 減圧弁・安全弁・バルブ類点検と管理
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物分別の管理
	産業廃棄物の削減	■ 産業廃棄物の分別・整理・管理 ■ 食品廃棄物の分別の徹底及び管理
	節水	■ 工場内の水漏れの定期点検 ■ 工場用水の使用量の把握と管理
	化学物質使用量の削減	■ 使用量の把握と管理
	環境配慮製品の開発・販売促進	■ 課題の把握と管理
事務部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ エアコン設定温度管理の徹底
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ 社用車の走行距離・ガソリン購入量の記録化 ■ 走行距離に応じたメンテナンス実施
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 本社事務所の可燃ごみ重量測定
	節水	■ 使用量の徹底管理(ゲーター更新&集計) ■ メンテナンスによる漏水防止
	グリーン購入の推進	■ 購入品の把握と継続的な購入推進
研究開発部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し ■ 休憩時、退出時等の消灯実施 ■ 裏紙の積極的な利用
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物の重量の把握 ■ ゴミ分別の徹底によるリサイクル率の向上
	産業廃棄物の削減	■ 適正な分別の徹底 ■ 廃液処理手順の見直し ■ ガラス器具の破損防止
	節水	■ 器具洗浄方法の見直し ■ 退出時に見回り、元栓の開閉を実施
	化学物質使用量の削減	■ HPLC移動相の適正量調査 ■ 計画的な購入と無駄の排除
営業部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ エアコン設定温度管理、スーパークールピズ対策 ■ 照明及び未使用機器の節電
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 書類の紙媒体削減、可燃ごみの削減
	節水	■ 節水の周知徹底、節水機器の設置

中期目標(2013年~2015年)

	項目	2012年度 (基準年)	2013年度	2014年度	2015年度
本社・工場	二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,356 t-CO ₂	1,349(0.5%節減)	1,340(0.7%節減)	1,326(1%節減)
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,685 t-CO ₂	2,671(0.5%節減)	2,653(0.7%節減)	2,626(1.0%節減)
	一般廃棄物の削減	36.9 t	36.5(1%削減)	36.3(1.5%削減)	36.2(2%削減)
	産業廃棄物の削減	61.4 t	60.8(1%削減)	60.2(2%削減)	59.6(3%削減)
	総排水の節減	100,743 m ³	99,736(1%節減)	98,728(2%節減)	97,720(3%節減)
	化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	1%削減	1.5%削減	2%削減
	グリーン購入の推進	20品目	22品目(10%増加)	24品目(20%増加)	26品目(30%増加)
	製品毎の製造工程改善	活動検討	現状把握	課題改善	課題改善
	食品廃棄物リサイクル率の維持	80 %以上	維持	維持	維持
東京支社	二酸化炭素排出量(電力)の節減	6,212 kg-CO ₂	現状維持	現状維持	現状維持
	一般廃棄物の削減	354 Kg	351(1.0%削減)	349(1.5%削減)	347(2.0%削減)
	総排水の節減	106 m ³	現状維持	現状維持	現状維持
	グリーン購入の推進	8品目	9品目(10%増加)	10品目(20%増加)	11品目(30%増加)

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2011年の値 = 0.463を使用する。

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)
温対法	全事業所	○(定期報告)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)
工場立地法	本社・工場	○(届出)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク 貯蔵所など	○(届出、測定)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、 マニフェスト管理)

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
フロン回収破壊法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(証明書の管理)
食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、 リサイクル率 98.3%)
家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
高圧ガス保安法	高圧ボンベ等	○(管理)
自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

違反、訴訟等の有無

上記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は99.2%と維持できています。
なお関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

代表者による評価と見直し

総括

本年度は、昨年度と比較し生産金額を増大させることができた一方で、環境負荷を低減させることができた。グリーン購入も継続的に進めることができ、社員のエコアクション21(環境経営)への理解も毎年向上してきている。内部監査においては、まだまだ改善の余地があるが、社員教育による衛生環境と安全環境の整備は改善傾向にある。実験教室などの教育CSR、地域の周辺美化活動、「挨拶 地元を元気に！」による挨拶運動が定着してきたことで、地域の皆さまと社員の間に好循環が生まれてきている。新年度から、新たに地域消防の活動にも参加していく方針。積極的に地域消防に貢献していくことで、社内外の衛生環境、安全環境の更なる向上に努めていきたい。

株式会社常磐植物化学研究所 <http://www.tokiwapl.co.jp/>

本社/工場: 〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158番地

TEL043-498-0007 Fax043-498-0561

東京支社: 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6階 TEL03-5200-1251 Fax03-5200-1256